



日刊 労千葉

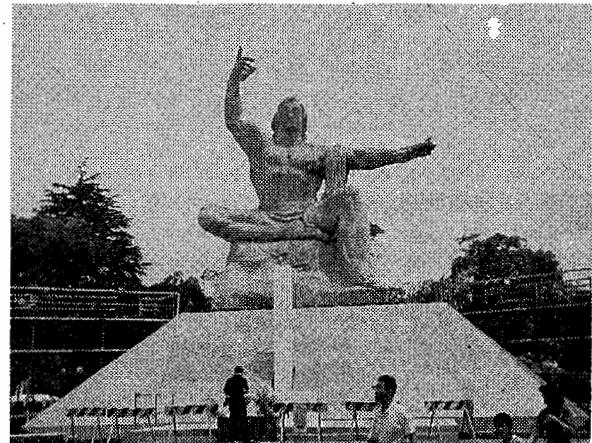
国鉄千葉労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(労働組合会館)
電話 | (鉄道) 千葉 2935・2936番
(公) 千葉 (22) 7207番

91.8.19 No. 3448



反戦の誓い胸に!



8.9
ナガサキ
報告

八月七日～九日、被爆者を望む松ヶ枝埠頭で海外代表を含む三五〇〇人が参加し、昨年の八・九から今年までの一年間で七二七人、四六年間で二六万人もの被爆者が亡くなり、現在の平均年齢も六三才に達しており、被爆者擁護法の制定が早急に必要であること、全世界で三五〇〇万人の被爆被害者がおり、ヒロシマ・ナガサキを原点とした運動で闘いぬく、等が確認された。

二日目は、八分科会に

集会には、反戦自衛官の藤尾陸士長、「日の丸」裁判闘争を闘う労働者、市民、頭で闘う労働者、市民、

学生が結集し、PKO法案=自衛隊海外派兵阻止をささげ、二度と国鉄労働者は戦争に協力しないことを誓い、一〇時三十分からの閉会総会に出席したのち、帰路についた。今、時代が急速に戦争への道をころげ落ちようとしている時、本当に身体をはつて戦争に反対する。二度と侵略と破壊、さらに、「ヒロシマ・ナガサキ」をくり返さないために全力で反戦闘争をやりきろう。

JR内の労働運動は日々刻々と激しい勢いで変化・激動を開始・大再編の時代に突入している。
歯止めを失ったJR総連の分裂、国労の続発とあいまって、今やJR体制は根幹から搖ぎはじめた。
「激動こそ好機」という積極果敢な立場から、こうした激しい動きは何を意味しているのか、その本質をしっかりと見抜き、確信も固くJR総連解体、JR東日本五万人体制攻撃粉碎にむかって進もうではないか!

激動こそ好機



I 激動こそ好機

J R 総連の分裂

七月二五日、反戦マルグループは、大会開催の仮処分裁判を名古屋地裁に申請。マル佐藤らが「JR東海労働組合」をテンチ上げ分裂へ

五月二三日、JR西労組分裂
七月六日、革マル「東海労考
る会」デッチ上げ

七月一七八日、革マル佐藤政雄(東海
)をはじめ三名の名前
で「不当労働行為」の
救済を地労委に申し立てる

佐藤(委員長)が拒否

【この意味するもの!?】
すばり言って、JR体制(=JRとJR総連結託体制)がのっぴきならない危機に突入していることを、激しい形で突き出しているということである。
「株式上場によって初めて民営化が完成する。その為には健全な労使関係(一企業一組合)が条件」という「戦略」が根幹から崩れ出したということであろう。

「新婚二年で被爆し、その後、後遺症で何回も死のうと思った」「一人でも多くの人に私たちの話を聞いてもらい、二度と戦争をさせないで」と、涙ながらに訴える姿に思わず胸がつまってしまった。

その後、真に原水禁運動を継承する実行委員会の集会に参加した。
集会には、反戦自衛官の藤尾陸士長、「日の丸」裁判闘争を闘う労働者、市民、頭で闘う労働者、市民、